〈幼稚園教育〉

思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむための援助の工夫
――「劇遊び」を通して――

うるま市立勝連幼稚園教諭　仲　西　末　子

Ⅰ　テーマ設定の理由

幼稚園の年間行事に「生活発表会」がある。1 年間の幼児の成長を保護者に見てもらうことがねらいであり，リズム，表現，歌，楽器，劇と趣向をこらして取り組む。「生活発表会」とはその名の通り，幼児のこれまでの生活を積み重ねてきた姿を発表し，保護者と共に成長を確認し合うものである。

幼稚園教育要領「総則」において「幼児の主体的な生活を促し，幼児期にふさわしい生活が展開されるようにする」また「第 2 章教育課程の編成 1」「幼稚園教育は入園から修了に至るまでの長期的な視野をもって，充実した生活が展開できるように配慮しなければならない。」とあるように幼児が幼児期にふさわしい生活を展開し，発達に必要な体験を積み重ねた結果，主体的な取り組みの生活発表会が展開されなければならない。もとより，その中の一つが劇遊びである。

幼稚園の生活発表会は教師の長期的な見通しをもった指導のもと，幼児が主体的に生活した結果でなければならないが，私のこれまで生活発表会における劇遊びの指導は，教師の一方的な意図や誘導により，子どもたちを「練習」という型で取り組ませた結果，幼児の主体的な取り組みにはならなかった。幼稚園において幼児の体験することのほとんどはその過程が大切であり，結果ではないという基本的な視点に欠け，劇遊びに取り組む過程で育つものより，劇の発表ということに重点を置いていたからだと考える。

劇遊びは，友達と表現の場を共有し合うことを通して，イメージを膨らまし，幼児が主体的に「ごっこ遊び」や「なりきり遊び」を体験し，次第に言葉でのやりとりを楽しむ劇的な活動として展開していく遊びである。その根幹をなすのは「互いの思いの伝え合い」であるといわれる。

幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい(2)においても，「人の言葉や話などをよく聞き，自分の経験したことや考えたことなどを話し伝え合う喜びを味わう。」とある。つまり，言葉による伝え合いができるようにすることが求められている。このことは，生きる力の基盤作りである幼稚園教育の中で「言葉を通して人と関わる力」につながるものであり，「コミュニケーションの力」であると考える。

そこで，「思いを伝え合い」や「仲間とのやりとりが楽しい」「イメージを共有し表現し合う」などを体験し「見てもらいたい」「発表する」という主体的な生活の中で充実感が得られるようにと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究目標

思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむ幼児を育むために，劇遊びを通して指導・援助のあり方を探る。

Ⅲ　研究仮説

1　基本仮説

幼児の興味・関心に即した「絵本」や「物語」に親しませ，「劇遊び」への展開を体験するように環境構成や援助の工夫を行うことによって，幼児が思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむようになるであろう。

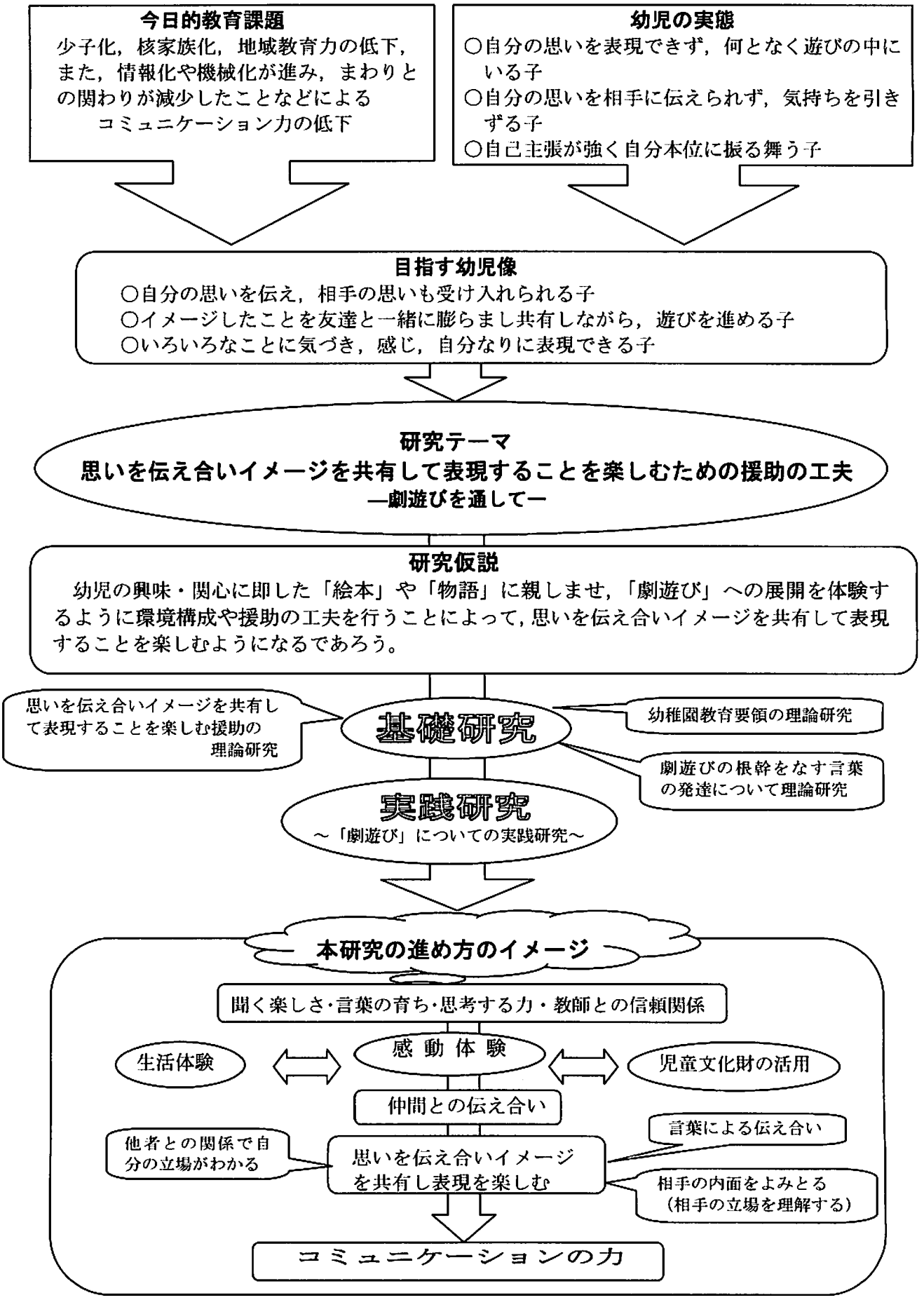
2　具体仮説

(1) 幼児の日々の遊びの姿を捉え，興味・関心に即した「絵本」や「物語」に親しませることによって，イメージを共有して遊ぶ楽しさが味わえるであろう。

(2) 教師が幼児の言葉をつないだり，必要に応じて言葉化するなどによって，幼児同士の伝え合いが深まり，イメージを共有して表現を楽しむであろう。

(3) 絵本の場面に合った環境を整えることで，幼児が自ら環境に関わり，イメージを膨らませて遊びを楽しむことができるであろう。

Ⅳ 研究の全体構想図


今日的教育課題
少子化，核家族化，地域教育力の低下，また，情報化や機械化が進み，まわりとの関わりが減少したことなどによるコミュニケーション力の低下
幼児の実態
○自分の思いを表現できず，何となく遊びの中にいる子
○自分の思いを相手に伝えられず，気持ちを引きずる子
○自己主張が強く自分本位に振る舞う子
目指す幼児像
○自分の思いを伝え，相手の思いも受け入れられる子
○イメージしたことを友達と一緒に膨らまし共有しながら，遊びを進める子
○いろいろなことに気づき，感じ，自分なりに表現できる子
研究テーマ
思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむための援助の工夫
―劇遊びを通して―
研究仮説
幼児の興味・関心に即した「絵本」や「物語」に親しませ，「劇遊び」への展開を体験するように環境構成や援助の工夫を行うことによって，思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむようになるであろう。
思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむ援助の理論研究
基礎研究
幼稚園教育要領の理論研究
劇遊びの根幹をなす言葉の発達について理論研究
実践研究
～「劇遊び」についての実践研究～
本研究の進め方のイメージ
聞く楽しさ･言葉の育ち･思考する力・教師との信頼関係
生活体験
感動体験
児童文化財の活用
仲間との伝え合い
他者との関係で自分の立場がわかる
思いを伝え合いイメージを共有し表現を楽しむ
言葉による伝え合い
相手の内面をよみとる（相手の立場を理解する）
コミュニケーションの力

Ⅴ　研究方法

1　文献，資料による情報収集と理論研究

2　検証保育を中心とした実践研究

（※ビデオ機材の活用による幼児の言葉･行動，教師の関わりの分析･考察）

Ⅵ　研究内容

1　理論研究

(1) テーマについて
　　伝え合うとは　イメージを共有するとは　表現について　劇遊び
　　絵本や物語（児童文化財の活用）　教師の援助の在り方
(2) 思いを伝えると幼児の言葉の発達
(3) 幼稚園教育要領の５領域とテーマとの関わりについて

(1) テーマについて

① 伝え合うとは

「伝え合う」というコミュニケーションの手段は様々であるが，主になるのはやはり言葉によるコミュニケーションである。欲求，要求，感情，考え，経験や知識を他者に伝え，反対に他者の欲求，要求，感情，考え，経験や知識を理解する行為である。「伝え合う」ことができるようになると，大人との関係，友達との関係など社会性の発達が促される。そして，幼児同士の会話が成立する過程で「仲間」ができていく。

入園当初，幼児の「思いを伝える」行為は一方的であるが，教師に受け入れられ自分なりの言葉で思いを伝え，相手に受け入れられることで安定して過ごせるようになる。教師との信頼関係が築かれ心が安定することで，生活や仲間が広がっていく。そして相手に親しみを感じ，思ったことを伝えようとする。

幼稚園教育要領「言葉」の内容の取り扱い(2)においても「言葉による伝え合いができるようにすること」と追加されたように，「伝え合う」ことは重要視されている。幼児は「伝え合う」ことを通して，相手と思いを共感できることに喜びを感じる。また，自分の言ったことが相手に通じず言葉で伝えることの難しさやもどかしさを感じたりするなどの過程で思考する力も育つ。このような体験を繰り返す中で，折り合いをつけることを学び，幼児のものの見方や考え方を確かなものにする。コミュニケーション力が低下している現代だからこそ，人とのかかわり方や思考を育てる上で，「思いを伝え合う」行為は幼児期の発達の課題であり，重要視されていると考える。

「思いの伝え合い」を劇遊びの展開の中で捉え，自分の思いやイメージを言葉で伝え，相手の思いやイメージを聞く中での育ち合いを考えてみることにした。

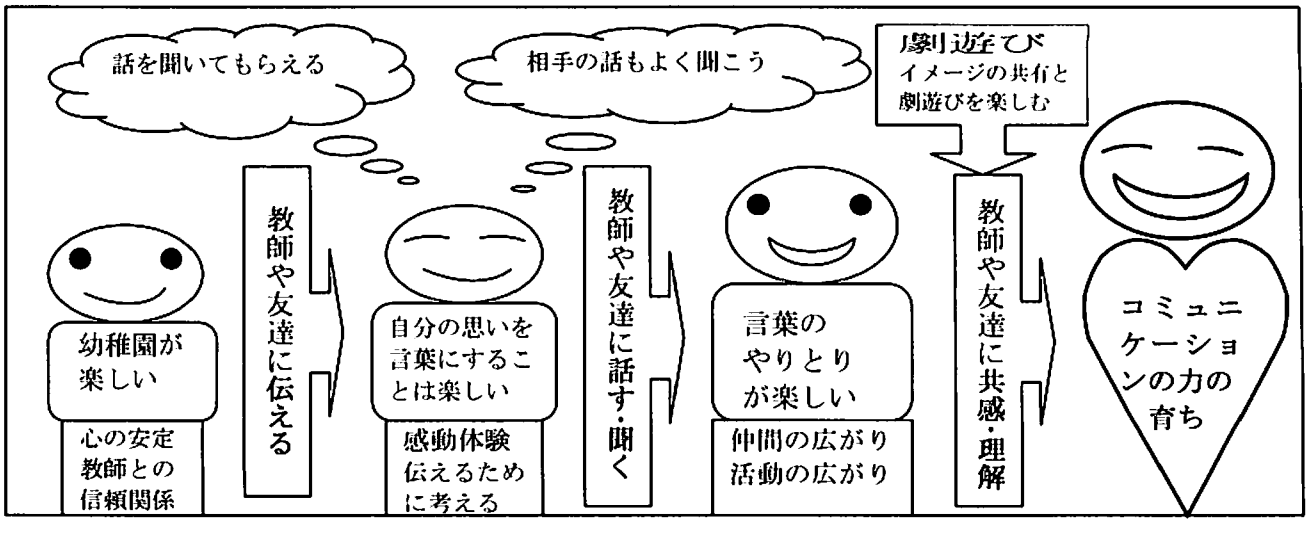


図１　幼児同士の「伝え合い」ができるようになる過程

② イメージを共有するとは

幼児期はイメージが育つ時期であると言われる。それぞれが持っている心の中にあるイメージを話し，そのことが相手に伝わることによって互いにイメージを膨らまし対話が成立する。このように自分の思いを相手に伝え，相手の話を聞く体験を積み重ねることによって，イメージが膨らみ豊かになっていく。その体験の一つとなるよう劇遊びを通してイメージを共有し，膨らましていく楽しさを味わわせたい。そこで，「イメージの共有」を，イメージが膨らんだ上での「共有」として捉えたい。

岡田明（2008）は「【新訂】子どもと言葉」の中で，「想像する力を育てるための教師の援助の視点」を下記のように述べている。

ア　日常生活を大切にし，心を動かすような体験ができるようにする。
イ　絵本や物語などに親しみ，興味を持って聞くことにより想像する楽しさを味わわせる。
ウ　生活の中で言葉の楽しさや美しさに気づかせ，言葉に対する感覚を育てる。
エ　教師や友達と言葉で伝え合ったり，互いに考えたりする機会をもつ。
オ　教師は明るい表情や丁寧な言葉づかいで話すようにする。

友達との伝え合いは「相手の内面を読む」力や自分の思いを整理して伝える力になり，その過程で言葉が育ち，コミュニケーションの力が育つ。また，イメージを共有するプロセスで幼児期の様々な発達が促されるものと考える。思いを伝え合うことにより，イメージが共有され喜びや感動は倍増する。「伝え合い」と「イメージの共有」は相互作用の関係にあり，連動している。

③ 表現を楽しむについて

玉越三朗（1966）は「表現力を高める遊び」の中で「『表現』ということは，一般に幼児の内面的な思考，感動，感情，欲求，経験等を，さまざまな方法で外部になんらかの形で現すこと，つまり，幼児の心の動きを外部に現すこと」と述べている。幼児が自ら表現するには心を動かすことが重要であると捉えた。

幼稚園教育要領の「言葉」の領域のなかでも「幼稚園生活の中で心を動かす体験を通して様々な思いをもつことが大切」と述べている。幼児が心を動かす体験を積み重ねることによって，自分の思いを仲間や教師に伝え，受け入れられて満足し安定していく。

幼児が内なるものを言葉にして現すことで満足感を味わい，「表現」することを楽しむことができれば，「伝え合う」行為は自ら意欲的に，主体的に行われるようになると考える。これは，自ら人と関わる力につながると捉えた。

「表現を楽しむ」は，「言葉の表現」と捉え，相手と伝え合いイメージを共有して膨らませていく過程の中で言葉のコミュニケーションを楽しみたい。

しかし，幼児の表現は素朴で自分本位なところがあったり，手振り身振り表情などで表したりする。そのため，幼児なりの動きを受け止めたり，その思いを教師が言葉で表現していく援助が必要である。

④ 劇遊びについて

「劇あそび」は，人とのつながりの中で想像力をはたらかせ創造することを楽しむ遊びである。絵本，物語（児童文化財）などで見聞きしたことや身近な出来事を取り入れて遊びを創っていくことを楽しむ。台詞を暗記させて見栄えよく表現するのが目的でない。場や雰囲気を作り，そこで出た生きた言葉を大切に育て，劇の中に取り入れ仲間と創っていくことを楽しめるのが劇遊びだと捉える。そこに子どもたちの思いや考えを取り入れていくことで満足感を味わったり，友達の良さを認め合ったり，思いが通らないことから折り合いをつけることも味わうことができる。つまり，「仲間どうしで〈無〉から（有）を生み出す，いわば，あそびによって，子どもたちが主体的に形成する小さな社会の誕生」と小田豊(2003)は述べている。劇遊びは幼児が日常生活の中で自分を発揮し思いを伝え合う過程であり，その伝え合いは生活の根幹をなす。また，自分なりの言葉での表現から相手にわかるように話し，互いにイメージを共有し場面にあった言葉を使い合うなど幼児の社会性の発達や言葉の獲得の集大成とも言える。

しかし入園当初すぐに劇遊びが行えるわけではない。発達段階に合わせて遊びも変わってくる。小田豊(2003)「保育内容 言葉」と高杉自子（1973）「新しい劇遊びの指導」を参照し，それぞれの遊びについて自分なりにまとめてみた。

表１　幼児の想像性を生かした遊びについて

見立て遊び	1歳近くなる頃から，大人のまねをして1人でも行うことができる遊び。目の前にないものを想像して，何か他のものに見立てて遊ぶこと。（例）積み木を耳にあて電話に見立てたり，ぬいぐるみにコップをあてて飲んでいるように見立てるなど。
ごっこ遊び	言葉を使いはじめた幼児に見られる遊び。2人以上の子どもが一緒に日常生活の再現をして大人や興味・関心のあるものの動作をまねて遊ぶこと。（例）ままごと，鬼ごっこなど
なりきり遊び	ごっこ遊びよりも，すっかりそのものになって遊ぶこと。自分自身とは別人で，役のキャラクターが強くなっている。（例）オオカミごっこ，仮面ライダーごっこなど
劇遊び	ごっこ遊びとの違いは「お話」が入った遊びであり，現実とは違ったもう一つの世界を楽しめる。絵本や物語などでイメージを共有し，大勢で遊ぶことができる。
劇的活動	劇遊びだけでなく，ストーリーがあり，想像を楽しむという点で人形劇，ペープサート，紙芝居なども含まれる。ストーリーを自ら作り出したり，演ずるために必要な物を作ったり，役割分担や友達と見せ合うなどの一連の活動を含んでいる。

⑤　絵本や物語（児童文化財の活用）

ア　児童文化財について

児童文化財とは幼児期に感動する心を育て，イメージを豊かにし，体験を豊かにする。心の栄養であり，諸機能を育て，幼児期になくてはならない存在のものである。具体的に挙げると，お話，絵本，紙芝居，ペープサート，パネルシアター，人形劇等々である。児童文化財を保育に活用することによって，幼児の生活に明るさと楽しさと夢を与えることができる。また，その楽しみの中で幼児の言語活動は豊かになり，言葉の指導効果を一層あげることもできる。そのためには，幼児の興味・関心に即応することと，保育者自身が子どもと感動を分かち合い，ともに成長していこうとする姿勢が大切である。また児童文化財をどう選び，子どもたちにいかに伝達するかということは，保育者の人格が直接反映される。そのため，保育者自身の感性や人間性を高める努力を惜しまず続けることが望ましい。

イ　絵本や物語について

絵本とは，絵で主題を表現している本であり，子どもが比較的早い時期から接する児童文化財の一つである。絵本は絵だけのものもあるが，ふつう絵と文の両方に描かれ，何枚かがつづり合わされて本の形をとっている。そばにいる大人に読んでもらったり，一人でみるよう作られているが，絵がはっきりしていて，ある程度の大きさがあれば，集団に読み聞かせすることもできる。

⑥　教師の援助のあり方

幼稚園における人的環境としての教師の担う役割は大きい。それは物的・空間的環境を構成する役割と，その環境の下で幼児と適切なかかわりをする役割である。具体的に述べると，教師は一人一人の幼児に対する理解に基づき，環境を計画的に構成し，幼児の主体的な活動を直接援助すると同時に教師自らも幼児にとって重要な環境の一つになるということである。そのために教師は，幼児一人一人の行動と内面を理解し，心の動きに沿って保育を展開することによって心身の発達を促すよう援助することが求められる。

そこで，幼稚園教育要領「表現」を参照し，幼児の劇遊びに至る過程と教師の援助を自分なりにまとめてみた。

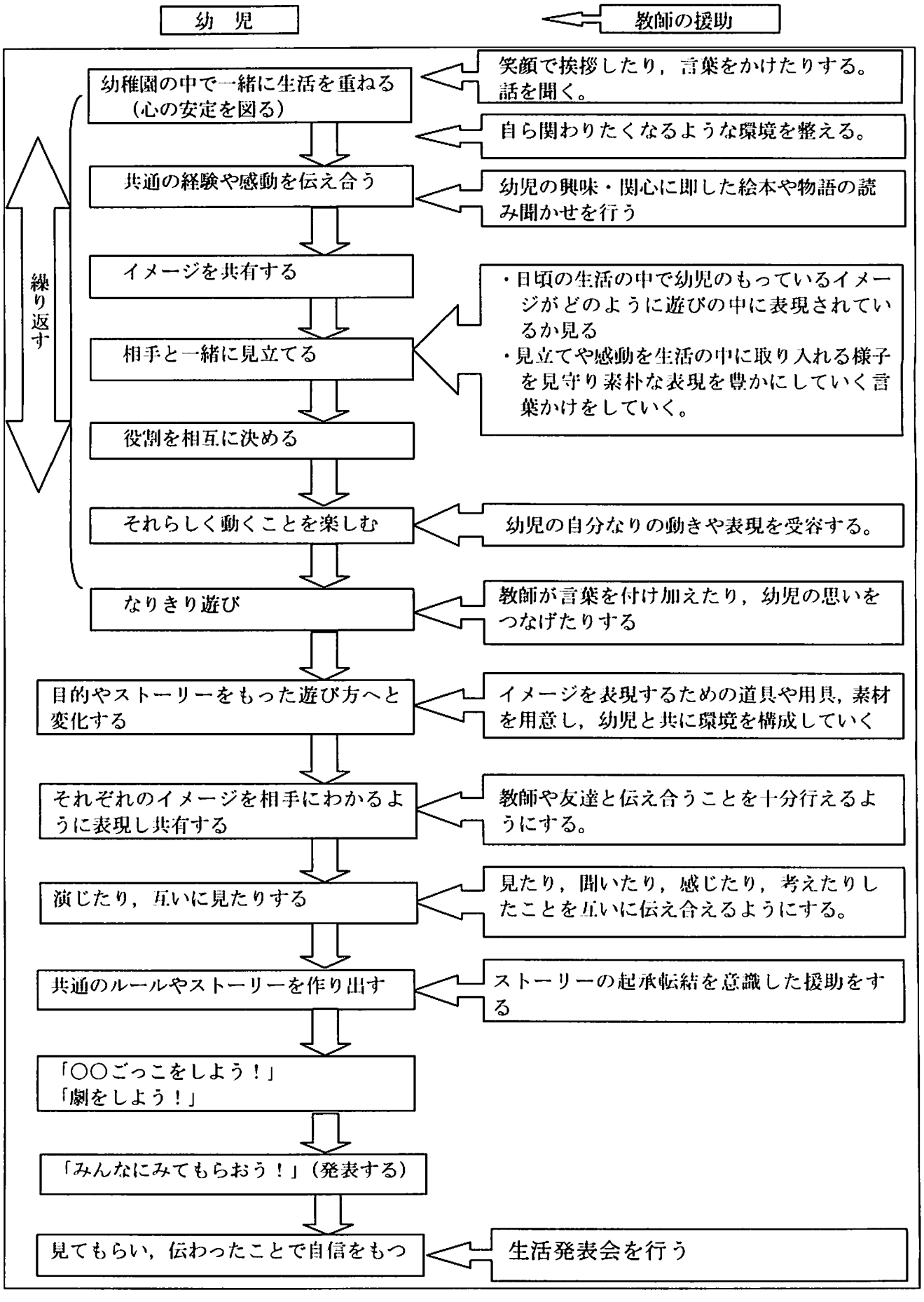


図２　自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じたて遊んだりするなどの楽しさを味わう過程と教師の援助

2　劇遊びの根幹をなす言葉の発達について

(1) 言葉の発達

本研究のテーマにおいて，言葉が重要なポイントとなっている。伝え合いは言葉を素にしている。その幼児の使う言葉が豊かになれば，伝え合いやイメージの共有も深まっていくと考える。言葉の発達は「聞くこと」から始まり，受容した言葉を少しずつ「表現」していく。自分の思いを表現し，相手の表現を受けることで「思考」し，言葉が発達していく。その言葉の発達について図に示した。

図３　岡田(2008)「【新訂】子どもと言葉」や小田(2003)「保育内容 言葉」を参照し言葉の発達についてまとめた
（□に記載している内容は，岡田明(2008)「【新訂】子どもと言葉」から引用）

聞くこと

人間の発達していく過程の中で，言葉の獲得そのものがコミュニケーションの始まりであるといわれる。赤ちゃんは哺乳と休憩を繰り返すなかで，母親の言葉を聞きながら対話しコミュニケーションを学んでいくといわれる。そのため，コミュニケーション〔伝え合い〕の始まりは，まず「聞く」ことから出発する。

幼児にとっての「聞く」は受容活動のひとつである。幼児の受容活動を活発にすることが，表現活動を活発にさせることにつながる。

また，「聞く」ことを通して言葉のシャワーを浴びることは表情にも影響する。岡田(2008)によると「幼い時に母親などから言葉かけをあまりしてもらえず，テレビにおもりをされていた子どもの中には，人とのやりとり，聞き合うことが少ないために，表情が豊かになりにくい。」と述べている。実際に表情の乏しい子の中に，親からの言葉かけが少なく，テレビやゲームをしていることが多い子がいた。幼児期の言葉かけを通しての「聞く」ことの大切さを実感した。

「聞く力を育てるための教師の援助」

① 人の話す言葉に興味や関心を持ち，親しみを持って聞けるよう信頼関係を築く。
② 話す人の顔や表情をしっかりと見つめながら積極的に話が聞けるようにする。
③ 教師が一生懸命話すことで，子どもたちも一生懸命聞けるようにし，集中力を養う。
④ 大勢の友達と一緒に聞く中で，イメージを共有し聞く楽しさを味わせる。
⑤ 教師が子どもたちのよい聞き手となり，聞き方の見本となるようにする。
⑥ 教師は聞きやすい環境を構成する。(夢中になって聞くことができるよう疲れたときは楽な姿勢で聞いていいと伝えたり，話し手の声が聞きやすい場所にするなど)
⑦ 絵本やお話など言語文化とかかわりの持てる環境を用意する。

言葉で表現する

子どもは心身の発達に伴い，いろいろな段階を経て，またさまざま経験を通して，徐々に言葉を使うことができるようになる。

4～6 歳の時期は言葉を使った生活が定着する。しかし，言葉だけで伝達することはまだ十分でない面も見られるので，大人が読み取ってあげることが大切である。そして少しずつ相手に理解できるように話そうという気持ちが見られるようになる。

このように「話す」ことは相手とのやりとりによって「話す」ことを目的とした訓練によって話せるようになるのではない。相手とコミュニケーションをとりたいという思いから，しだいに話せるようになるのである。そして言葉が発達していく。

また小田(2003)は，5 歳頃から自分の話している言葉を音節に分けて考えたり（音節分解），言葉のなかに含まれている音節を取り出したり（音節抽出）するなど，言葉の意識化できるようになると述べている。(例えば「あお」「あ」と「お」からできていて，その「あ」は「あり」の「あ」と気づくなど）このような幼児期の言葉に対する興味･関心の高まりから，この時期のしりとり遊びなどの言葉遊びの重要性がわかった。

次のページ　　次のページ

「自分なりの言葉で表現しようとする力を育む視点」

① 子どもの声をゆったりとした気持ちで聞く。
② 教師は子どもの言葉を受容する。
③ 教師は，子どもの言動をよく見る。
④ 子どもたちから尋ねられたときは，答える。(応答する)
⑤ 一人一人発達に応じた言葉かけをする。
⑥ 安心して話すことのできる場を整える。
⑦ 教師自身が丁寧な言葉で話す。
⑧ 児童文化財などを行かし，言葉を育む環境を豊かにする。

思考する

人間は生まれながらにして言葉への特別な能力をもっていて，言葉による思考が早いうちから可能であるといわれる。乳児期に様々な言葉が内面化され，諸機能の発達と共に言葉による思考が可能になる。

岡田（2008）は子どもの言葉による思考についてこう述べている。「考えてから行動する大人に対して子どもは行動しながら話す。しゃべることが多い。しゃべりながら考えている。つまり，しゃべっていることが考えていることでもある」実際に子どもたちは思ったこと，気づいたことをすぐに口にする。そして教師や友達とのやりとりの中で思考したことを出し合いながら遊びを深めていく。「思考する」ことにおいても，相手とのやりとりが重要だと捉えた。

結　論

幼児の言葉の発達は，
身近な人との会話や「言葉遊び」や
「絵本」，「物語」などから言葉を内面化し，
生活や遊びの中で相手とのやりとりを
通して発達すると捉えた。

「考える力を育てる際の教師の留意点」

① 子どもの考えを尊重する。
② 子どもの行動を見守る。
③ 保育者が受容する心をもつ。
④ 環境を整える。

(2) 劇遊びの中で言葉を育てるには

幼稚園生活を通して，言葉を育てていくものであるが，本研究の中で「言葉の発達」の学びをどのように生かしていくかを下記のように表した。

☆「絵本」や「物語」の読み聞かせを通して，言葉を内面化し，生活の中に取り入れていく。
☆ 言葉を豊かし，発達を促すために，言葉遊びをする。
☆ 劇遊びをする中で，幼児同士の思いやイメージなどの伝え合いを深め合う。

また，荒木尚子(2009)の論説「言葉による伝え合いをはぐくむ指導」を参照し，「言葉の発達」の視点からみた「思いを伝え合いイメージを共有して表現を楽しむ」ための育ちの過程を自分なりにまとめた。

表２　「言葉の発達」の視点からみた「思いを伝え合いイメージを共有して表現を楽しむ」ための育ちの過程

期	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	小学校入学期
月	４～５月上旬	５月中旬～６月	７月	９月～12月	１月～３月	
発達の道筋	○教師との関わりの中で安定していく。	○友達との関わりを喜び，周囲の人や物への興味・関心が広がり積極的に環境に関わって遊ぶ。	○仲間意識が芽生え友達と共に遊び生活する楽しさを知っていく。	○友達関係を深めながら自己の力を十分には発揮して生活をする。	○知的な遊びを展開し友達と共通の目的をもって生活をする。	○自分の思いを整理して伝える
聞く力	教師の話を喜んで聞く 絵本や紙芝居を喜んで聞く 友達と一緒に話を聞く	教師の話に興味・関心をもって聞く 言葉の繰り返しやリズムの楽しさを楽しむ。 簡単な遊びのルールを聞きわかる 友達の話に興味や親しみをもって聞く	遊びのルールを聞き理解する 友達の話を聞き受け止める 友達の言葉や話を聞いてわかる	最後まで話を聞く 言葉のリズムや響きの楽しさや美しさを味わう 素話や物語を聞く 最後まで話を聞き話の内容がわかる 相手の気持ちや反応に気付きながら聞く	話に興味をもって集中して聞く 長いストーリーの絵本や物語の内容を想像して聞く。 友達のアドバイスや励ましを聞き入れる 指示や目的を理解し自分から行動する	・大事なことを落とさないようにしながら，興味を持って聞く
思いを表現する	教師と挨拶をする 名前を呼ばれて返事をする 歌を歌ったり、手遊びをする 自分のしたいことを言葉や動きで表現する 困ったことや必要な物を教師に伝える 感じたことを言う	友達と挨拶をする 友達の名前を呼ぶ 入れて、いいよなど簡単なやりとりをする 聞いた話を生活に取り入れる 自分の思いや経験を友達に伝える 自分の気持ちや考えを友達に言葉で伝える 自分の思いや考えを教師に伝える	自分から進んで教師や友達に挨拶をする 気付いたことや発見をクラスの友達に伝える 友達の思いや考えを聞き返事をする	友達の声を聞きながら声を合わせて歌う ストーリーに合わせてセリフを言ったり動いたりする 知りたいことやわからないことを友達にたずねる 学級全体の前で挨拶をしたり思いや考えを伝えたりする	友達の思いや考えを受け止めて自分の思いや考えを伝える 友達のよいところを褒めたり認めたりする 相手にわかるように言い方を変える 相手とも違う考えでも伝えることができる 場や状況に応じた言葉の使い方がわかり伝えられる	・様々な場面で経験したことを生かし，相手にわかるように順序立てて話す。
思考する	教師の話を考えながら聞く。 感じたこと気づいたこと考えたことを言葉や態度で表す 身近な物や遊具に興味をもって関わり、考えたり、試したりして遊ぶ。	よいことや悪いことがあることに気づき、考えながら行動する。 考えたことを自分なりに言葉で表現する。 自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。	自分の考えを友達に言ったり、相手の言うことを聞いたりして一緒に遊びを進める いろいろな話の内容を考えたり空想したりする 遊びを考えたり工夫したりする 必要な物を考えて工夫して作る	既成の遊具をヒントにして自分たちで新しい遊びを考えたり作ったりする 数量や図形に関心をもつ。 グループの友達と一緒に考えたり工夫したりして遊びを進める。	文字に関心をもつ。 友達と一緒に考えを伝え合って遊びを進める楽しさを味わう 友達と遊び方やルールを考え、自分も試したり挑戦したりする。	・書かれている言葉の順序や場面の様子に気付いたり，想像を広げたりする。

3　テーマと幼稚園教育要領の関わりについて

幼稚園教育要領では，５つの側面が総合的に指導されるものである。そこで，「思いを伝え合う」から「劇遊び」に至るまでの育ちを各領域の視点から捉えてみる。
各領域に示すねらいが劇遊びにどのように指導されるべきなのか５つの領域で分析してみると下記のような図で示すことができた。

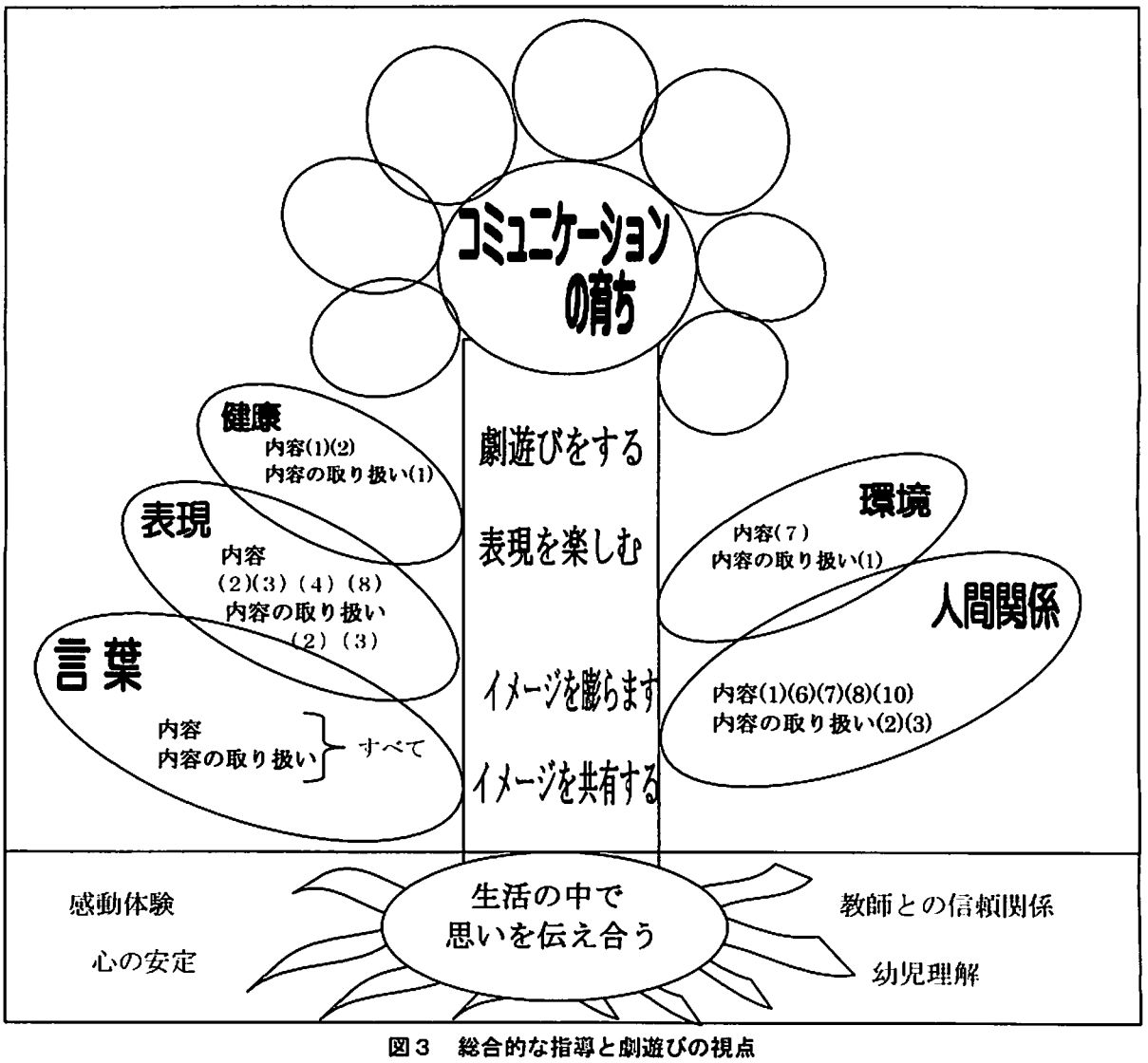


図３　総合的な指導と劇遊びの視点

以上のように，「思いを伝え合う」とは主に人間関係，表現，言葉に示されているが、もとより，総合的に指導されなければならないことであり，保育の根幹をなすと考えられる。

Ⅶ 実践研究

1　実践事例からのテーマの考察
2　検証保育
3　仮説の検証

1　実践事例　～思いを伝え合いイメージを共有する幼児の姿と援助の在り方～

実際の遊びの場面とテーマとの関わりをどのように捉え，援助していくか，実践事例を通して考えてみた。

(1) 思いを伝え合う場面について　「フラフープ遊び」　（21・10・29）

A子とB子は，それぞれでフラフープ遊びをしている。A子は教師を見るとかけてきて「せんせい，みてみて！いっぱいまわせるようになったよ！」とはりきっている。B子も後からかけてきて「自分も上手になったよ。せんせいみて！」と主張する。教師に思いを伝えることは上手だが，互いの思いの伝え合いが少ないように感じた。

教師はまず2人の思いを受け止め，フープを回す様子を見て「前よりもたくさん回せるようになってるね～。すごいね～。」と認め，気持ちを受け止めた。その後で，「じゃあ，上手になっているからいいもの持ってくるね。」と***カセットテープとカセットデッキを用意した。***音楽を流すことで，場や遊びを共有し友達同士の会話が生まれると考えたからである。「次は音楽を聞きながら回してみる？どの曲がいいかな～。」といろいろ聞いてみる。曲が決まると 2 人とも喜び「せーの」のかけ声と共に回している。

するとその様子を見て，C子が仲間になった。C子が途中からフープを回して仲間に入ると，A子とフープがぶつかった。A子「もう！なんでぶつける～！」C子「・・・」申し訳なさそうにしている。B子「じゃあ，離れたらいいさ～。」と広がって遊ぶことを提案する。「じゃあ，いい？いくよ。せーの！！」と一緒に回し始め，おのずとルールがつくられた。

しばらくするとA子が教師の元に走ってくる。「せんせい！すごいよ。歌が終わるまでずっと回せたよ！あの中で一番長く回した！！」と嬉しそう。見ると，フープ仲間が 5，6 人に増えている。いろいろな曲を試しながら「せーの！」と一斉にフラフープを回すなど，ルールをつくって遊んでいた。

〔考察〕幼児の姿から「友達同士つながりをもつには」と考え，環境としてカセットテープやカセットデッキを用意した。音楽を通して場を共有することがきっかけとなり，会話が生まれるであろうと考えたからだ。教師が視点をもち意識して援助したり，環境を整えたりすることで幼児同士の遊びのつながり，伝え合い，遊びのルールをつくって遊ぶなど，イメージの共有につながった。幼児の声や姿を受け止め，教師の意図を含ませ援助や環境構成を行う大切さを学んだ。

(2) 思いを伝え合いからイメージの共有「生活の中で思いを伝え合いイメージが共有される様子」（21・10・22）

砂山に亜鉛パイプを立て砂を硬め，亜鉛パイプに水を流し込む作業をしている女児 2 人，男児 2 人，水からの湿気で砂が崩れることに気づく。

B子「**弱ってるよ，弱ってる**」いいつつショベルをたたく

A子「**うん，弱ってる，弱ってる**」といいつつショベルで砂山の表面をたたく

D男，C子は水を流し続ける，B子，A男は「**弱ってる**」を繰り返しながらエネルギッシュに砂を増量したり，たたいたりする。H男が石（子どもの手のひらいっぱい程のおおきさ）を持ってくる「入れてもいいか」A男「B子，いれてもいいか」B子「いいよ，いいよ」H男「**爆発するよ，爆発するよ**」A男，B子投げ込まれた後，のぞき込み「**爆発よ**」と喜んでいる，H男とC子は流水に水路をつくりC男「**温泉つくろうね**」H男「うん，温泉いったことあるよ」教師「どろどろ温泉ってあるよね」「うん，どろ温泉，テレビでみたことあるよ」遊びは砂山つくり→爆発→温泉と広がっていった。

〔考察〕日常生活の中で子どもたちが思いを伝え合いイメージを共有する場面の一例である。最初，ショベルを使い亜鉛パイプをたてることで遊びが始まる。砂山の崩れる様子を「弱っている」というB子の自分なりの言葉での表現がA男，C子，D男に共有され，互いに「弱っている」を繰り返し，固める作業と水の流し込みで遊びが展開されていった。H男の投石は否定されると思っていたが逆に「爆発」という言葉で楽しさが広がっていったようである。更に水の流れを利用して「温泉」というイメージに展開。

既知の言葉を使い，友達の言葉に刺激を受け遊びを広げていく，子どもたちの発想の豊かさと相互に言葉を使いながらイメージを共有する様子を見ることができた。生活の体験の充実と思いを伝え合う育ちの過程には時間の保障も大切であると考えた。

(3) 絵本や物語に取り組んで　　(21・10・22)

「素話『バッタのお話』を聞いて　～大湾由美子先生がゆり組で行った事例から学ぶ～ 」

遊びの中でＳ太君がバッタとかまきりに関わった様子を取り上げた後，バッタの素話をする。
教師「みんなは今日幼稚園のお庭でいっぱい遊んだでしょう。バッタの幼稚園もあるのよ。バッタの幼稚園もね 子どもたちがお庭でいっぱい遊ぶんです。・・・」Ｓ男「森にもさ，動物たちの幼稚園あるよ。」教師「そうそう」***と教師は幼児の思いも受け止めながら，話を展開させていく。***

教師「バッタの園長先生がね『子どもたち今日は飛ぶ練習だよ。大きなジャンプの練習だよ。』と言って集めました。」と話す時にはどの子も話に入り込み集中して聞いている。教師の語る登場人物に合わせて実際に身をかがめたり，安心したりするなど同じ動きや気持ちで聞いていた。また，途中「せんせいあのさ～」と素話の内容をうけ自分の話をしようとした男の子に「し！」と女の子が押さえる場面も見られるなど，最後まで聞き入っていた。

話が終わると同時にＴ男が「うぉ～」とがかまきりの動きをまねる。***その様子を捉え，教師は「かまきりのまね上手だね～みんなもバッタになってみようか。」と声をかける。***すると全員がバッタになって飛び跳ねた。「一番バッタがきちきち～♪」と教師の歌にのって，子どもたちも動きをまねる。すると**Ｔ男が「ねぇかまきりはどこから出てくるの？」とかまきりになりたい様子である。**その言葉をうけ，場所を決めると他にもかまきり役をやりたい子が出て加わった。出番が来るまで，かまきりになりきったポーズで待機している。***教師が「ピアノ弾いてみようね。カマキリの出る音はどんな音か自分たちで考えてよ。」と伝える。***ごっこ遊びの途中教師は，低い音を即興で弾き場面の雰囲気を変える。すると，かまきり役の子たちが音の変化に気づき，自分達でなりきって出てきた。バッタの子達は逃げる。***その様子を受け教師は，カマキリ役の子に「作戦しよう。」と提案し集める。***「バッタを教室の外までは追っかけないでおこうね。」とルールを決める。皆しっかり守っていた。また***「かまきりさんで一番すごい人はＴ男君。こうやってでてきたよ」と動きが上手な子を褒め他児に知らせる。***すると「**Ｔ男についていこう！**」とＡ子はＴ男認める声を発していた。***遊びを終えて教師がＡ子の言葉を皆に伝え，賞賛する。***

満足感を味わった子どもたちは「もう１回やりたい。」と話し，翌日は戸外で再現していた。

〔考察〕

Ｓ太君の遊びの様子を話題にし，バッタの素話へと導入するなど身近な生き物を題材にすることが幼児にとってイメージしやすく，全体の興味･関心を高めている。また，教師の言葉もわかりやすく，話の内容も「バッタの幼稚園がある。」という身近な設定であり，バッタの状況描写がイメージしやすい。それが集中力やイメージのしやすさにつながっている。また，教師が幼児の動きを捉えたり，声を受け止めたりしながら要所要所で次の遊びにつながるような言葉をかけている。幼児の姿，声，動きを捉え，受け止めたり，認めたりしながら遊びを創っていくことが，遊びの楽しさにつながると実感した。

2　検証保育

検証保育指導案

日時：平成 21 年 12 月 11 日（金）10 時～
学級：うるま市立勝連幼稚園ゆり組
　　男児 14 人女児 11 人　計 25 人
保育者：仲　西　末　子
指導講師：大　湾　由　美　子

(1) 活動名
「劇遊びをしよう」

(2) ねらい
○友達と表現して遊ぶことを楽しむ。

(3) 内容
・イメージを共有して遊ぶ。
・友達と思いを伝え合って遊びを進める。

(4) 仮説

・学級の集う場において，絵本の登場人物になりきって遊ぶことによって，友達とイメージを共有する楽しさが味わえるであろう。

・友達と一緒に遊ぶ場において，お話作りをすることによって，自分の思いやイメージを伝え合う楽しさが味わえるであろう。

(5) 学級の実態

〔生活や遊びの様子〕

明朗活発で，自分の思いをよく話そうとする。しかし，場や状況に応じることができていなかったり，相手の思いを受け入れられなかったりするなど一方的な面が目立つ。また，逆に自分の思いをあまり話さない子もいる。

遊びに関しては，好奇心旺盛で興味や関心をもつとすぐに関わろうとする。

2 学期，運動会を終えてからは，運動遊び（竹馬・フープ・縄跳び・鉄棒など）に意欲的に関わり，できるようになるまで練習するなど粘り強さも見られるようになってきた。また，できるようになったことではとどまらず，遊びの中で技を極めたり，生み出したり，友達とルールを決めて遊びを進めるなど友達同士のつながりも見られるようになってきた。

現在では目的をもって遊びを進められるになり，「クリスマス会」に向けてそれぞれの出し物の仲間同士集まって，練習を進めている。その中で，自分たちで声をかけ合って主体的に集まったり，アイディアを出し合ったり，トラブルが起こっても自分たちで話し合って解決するなど育ちが見られる。

〔絵本や物語への関心〕

ほとんどの子が「絵本」や「物語」が大好きで喜んで見ている。好きな絵本は個人で何度も読み返したり，絵本貸し出しも盛んである。1 学期，生活の中で「おおかみと 7 匹の子ヤギ」の台詞を投げかけると子どもたちはすぐにお話の世界に入り込み，やりとりを楽しんでいた。

11 月，指導講師大湾由美子先生が本学級で子どもたちに素話をして下さった。この日初めて出会った由美子先生の素話の世界にすぐに入り込み，役になりきって遊ぶなど自分なりの表現を楽しんでいた。その遊びの中で自然に自分の思いやイメージを伝えていく様子や，友達の良さを認めその子の表現をまねをするなど友達を受け入れ遊びを進める様子などいろいろな育ちが見られた。

(6) 教材観

絵本「とりかえっこ」は主人公であるひよこが散歩に出かけ，その途中でいろいろな生き物や動物に出会い鳴き声をとりかえっこしていくという内容である。話の展開が繰り返しで簡単あり，子どもたちにイメージしやすいだろうと考え，選択した。またいろいろな生き物や動物が出てくることから，自分の好きな動物を選ぶ楽しさも味わえる。

子どもたちがクリスマスに興味・関心が高くなっており，遊びの中で「サンタごっこ」していたことから，絵本「サンタがきたらおこしてね」を選択した。子どもたちは鈴の音を「りんりんりん」と鳴らし，サンタクロースがきたことを知らせ，子ども役の友達にプレゼントを置いていくという遊びを展開していた。この絵本でも最初と最後のページで「りんりんりん」という言葉とともにサンタクロースが登場してくる。この子どもたちの遊びのイメージと絵本の内容が重なることから，子どもたちにとってもイメージしやすく遊びを展開しやすいのではないかと考えた。またこの絵本の話の展開が簡単なことから，この絵本の話を軸に「思いの伝え合い」をまずは教師と子どもたちの間で行い，お話を膨らましていく楽しさを味わえるのではないかと考えている。

(7) 保育観

子どもたちの生活や遊んでいる姿からかけ離れたものにならないように，子どもたちの実態や興味・関心から捉えることから出発する。そして子どもたちの興味・関心に即した「絵本」や「物語」を精選することが，子どもたちにとってイメージしやすく，「やってみたい」という思いにつながる。まずは，絵本の世界の登場人物になりきって遊ぶことで，イメージを共有する楽しさを味わわせたい。そして次の段階では，子どもたちが教師や友達に自分の思いやイメージ「伝え合う」場面を設け，絵本のお話を膨らましていく楽しさを味わわせたい。

(8) 検証保育までの活動計画

◎ねらい	○内容	日　時	幼児の活動と様子 ◇活動の流れ	☆教師の援助及び★環境構成
友達と表現して遊ぶことを楽しむ	○イメージを共有して遊ぶ　○友達と思いを伝え合って遊びを進める。	12月4日 (金)	◇担任とのひととき ・かけ合い遊び「お返事はーい」をする。 ・絵本「とりかえっこ」を見る。 ・劇遊びをする。	☆リズムに合わせて動物の鳴き声のかけ合いを楽しみながらイメージを共有する。 ☆落ち着いた雰囲気の中で絵本が楽しめるようにする。 ☆絵本を見ているときの子どもたちの見ている様子やつぶやきなどにも意識して捉えるようにする。 ☆子どもたちの自分なりに表現していく様子を受けとめながら，イメージして遊ぶ楽しさが味わえるようにする。
		12月7日 (月)	◇担任とのひととき ・絵本「サンタがきたらおこしてね」を見る ・「サンタごっこ」をする。	☆先日「サンタごっこ」を楽しんでいた子どもたちの様子をクラス全体の場で話題にし，興味・関心を持たせていく。 ☆絵本の読み聞かせを行い，クリスマスやサンタクロースのイメージが膨らむようにする。 ★鈴などの楽器を取り入れたり，教師の言葉かけや声のトーンなどを工夫したりし，共通のイメージをもってサンタごっこが楽しめるようにする。 ☆場面場面の雰囲気を大切にしながら遊びを進め，イメージを共有して遊ぶ楽しさが味わえるようにする。 ☆遊びをもっと楽しくするためのアイディアを子どもたちと出し合うことで，明日の意欲につなげていく。
		12月 8･9･10日 (火～木)	◇担任とのひととき ・クリスマスの歌を歌う。 ・クリスマスの絵本を見る。 ・役に分かれて話し合う。 ・小道具作りをする。 ・「サンタごっこ」遊びをする。	☆クリスマスに関する手話ソングやダンスを楽しむことでクリスマスの雰囲気が楽しめるようにする。 ☆クリスマスに関するいろいろな絵本を見ることで「サンタごっこ」のイメージが膨らむようにする。 ★子どもたちのイメージが表現できるよう，いろいろな素材を用意し作ることを楽しめるようにする。 ☆子どもたちが思いや考えを伝え合う場面を大切にしながら，遊びを進めていけるようにする。
		12月11日 (金) 検証保育	◇担任とのひととき ・手話ソング「赤鼻のトナカイ」を歌う。 ・絵本「窓からのおくりもの」を見る。 ・「サンタごっこ」をする。	☆クリスマスに関する歌を歌ったり，絵本を見たりしながら，クリスマスの雰囲気が楽しめるようにする。 ☆これまでの遊びの積み重ねを振り返り，子どもたちの頑張りを認めることで，今日遊ぶことに意欲がもてるようにする。 ☆昨日の遊びの様子を振り返り，今日新しく取り入れることを確認しながら期待が持てるようにする。 ☆子どもたちが遊びを進めていく様子を見守りながら必要に応じて援助する。

(9) 検証保育までの活動の流れ

	検証までの活動の流れ	
「とりかえっこ」	幼児の姿	「この絵本見たことある！」という子も多かった。絵本は集中して見ている。読み終わった後，イメージをすぐに言葉にする子は少なかった。セリフのかけ合いは皆参加していた。
	考察	読んだ後の反応が少なかったように感じたのは，絵本と子どもたちの興味・関心，育ちの時期などをうまくつなげることができなかったからだと感じた。子どもたちの興味・関心や育ちなどを捉える重要性を学んだ。
「サンタごっこ」	幼児の姿	○A子とS男のけんか 段ボールの壁を置くと喜んで遊びに使っている。そのうち，A子とS男が言い合いになった。 A子「せんせい，S男が2個も段ボール使って一つはステージにして一つは部屋にするっていってるよ。」

「サンタごっこ」	幼児の姿	教師「A子さんはどうしたいの？」A子「2つくっつけて部屋を広くしたい。」 教師「2人考えが違うね。じゃあどうしたらいいかな～」というと2人しばらく考える。考えている様子であったので，少し離れ様子を見守る。 S男「じゃあA子にゆずるよ。そのかわりテーブル使っていい？」 A子「なんでそしたらせまくなるさ～」A子はゆずりたがらない。 S男「はぁーし，おれはゆずったけど，A子はありがとうもいわんし」 と折れた自分を主張し，A子を攻める。 A子「なんでA子は言おうと思ったけど，S男が文句言うから言えんかったわけさ」 と反発し泣く。仲裁に入ろうか悩んだがしばらく様子を見守った。するとA子は泣きやみ，ケロッとしてS男の思いも受け入れながら一緒に仲良く遊ぶ姿が見られた。 ○課題活動として行う劇遊び 担任とのひとときの中で「サンタごっこ」を課題活動として行った為，途中で遊びから抜けてしまう子がいた。そこで，遊ぶ時間を変更し，牛乳の後のクラスのひとときで自然に劇遊びに関わっていく様子を待った。すると，段ボールの囲いを使って遊びの続きをする子がいた。そこで教師が声をかけ，やりとりしていると自然に一人二人と仲間が増えていった。「ピアノ弾く人したい。」という女の子や「俺たちは琉神マブヤーで子どもたちのおうちを守りたい。」と新聞紙で剣を作って参加する男の子のグループ等，参加するごとにストーリー膨らんできた。教師は子どもたちの動きや提案を取り入れナレーションを変化させていった。 ○マジムンとの戦い マジムンと戦う場面も加わったが，本気でたたかれて泣く子が出てきた。すると女の子たちが「透明のマジムンにして戦うまねにしよう。」と提案してきた。男の子たちもすんなり受け入れている。気がつくと全員が『サンタごっこ』を行っていた。 またマジムンが登場する場面ではT男が『いやな予感がする』っていったら？」とナレーションの言葉に対しても関心をよせていた。 ○明日のお知らせ 検証保育前日に明日お客さんがみえると告げた。 A子「じゃあ，子どもの出番を多くしないと！」S子「お話しする人S男がしたら」 と提案があり，ナレーションをS男が行うことになる。またS子から「朝から練習しないと！」と提案もあった。
	考察	・劇遊びに自ら関われるように，段ボールの囲いを用意した。すると子どもたちはすぐに遊びに取り入れ，『サンタごっこ』の続きを行っていた。その中でのS男とA子のトラブルでは、教師として、互いの気持ちを受け止めながら，気持ちの違いに気づかせ，ではどうすればよいかと考えるような声かけをした。すると、S男がA子にゆずる言葉をかけていた。私はこれまで，トラブルが起きるとお互いの気持ちがスッキリするまで関わってた。しかし、子どもたち同士の「思いの伝え合い」を視点にもち見守ったことで、折り合いをつけ自ら解決していく姿が見られた。普段自己主張が強いS男が譲ったこと、勝ち気なA子がS男に対して折り合いをつけ関わっていく様子に成長を感じた。環境を設定することで自ら遊びに関わり、その過程での育つものの大きさと、子ども同士の「伝え合い」からみる育ちの大きさを実感した。 ・「主体的に関わってほしい。」という願いから、劇遊びを行う時間を変更したことは良かったと感じた。検証保育であるため、全員が参加しなければとならないと担任のひとときの課題活動として行っていたが、指導講師の「一人でも関わっている子に声をかけていくことが大事だよ。」と助言を受け、そのように援助を行うと、自ら参加してくる子が増え、気がつくと全員が参加していたことには、私自身驚きであった。友達や教師の楽しそうな雰囲気が子どもたちの心を動かすことを学んだ。 ・しかし始めたばかりで、全体としてはまだまだ教師対子どもたちの伝え合いが主である。教師が子どもたちのアイディアも取り入れながらナレーションを行うことで，劇遊びは進行している。子どもたち同士の伝え合いが行えるよう援助の工夫を行いたい。

(10) 本時の保育（検証保育　6回目）

検証保育指導案　　平成21年12月11日（金）10時～		
昨日の幼児の姿	・遊びの中で自ら画用紙で本を作り，クリスマスのお話を書いている子がいる。 ・折り紙で星を作り，部屋に飾りつけした。「ほしに顔かいていい？」という子や自分なりに考えた星を貼る子，「そりにも貼ろう」と劇遊びの道具にも貼る子など，アイディアを出し合い雰囲気作りを楽しんでいた。 ・「明日お客さんが皆のこと見に来るよ」と話したことから，「子どもの出番を増やそう！」「朝から練習しよう」と提案する声があるなど意識が高まっている。	
ねらい	◎友達と一緒に表現することを楽しむ。	
内容	○作った物で遊ぶことを楽しむ。 ○自分なりに表現することを楽しむ。 ○友達と一緒に遊びを進めようとする。	
時間	活動の流れ	☆教師の援助 及び ★環境構成
8:30	○好きな遊びをする。 （戸外） 琉神まぶやーショー・砂場・泥団子作り・ブランコ・草花遊び・フープ・長縄・竹馬 （室内） サンタごっこ・楽器遊び・製作	★「サンタごっこ」のイメージが遊びの中で実現できるよう，いろいろな素材を用意し，関われるようにしておく。（綿・ダンボール・画用紙・縄・カラービニール・段ボールで作った囲いなど） ☆子どもたちが遊びに関わっていく様子を見守り，必要に応じて声をかけながら，自分たちで遊びを進めていけるようにする。 ☆自分なりに表現して遊んでいる友達の様子を認めることで，自信が持てるようにする。 ☆子どもたちの様子を見守りながら，マナーの面も考えることができるよう，気づかせるようにする。
10:00	○担任とのひととき ・「赤鼻のトナカイ」を歌う。 ・「サンタごっこ」をする。 ・自分の思いを伝えたり，相手の思いを聞いたりする。	☆手話ができる子には前に立って歌ってもらうなど，意欲的に参加できるようにする。 ★子どもたちが自分たちで準備していく様子を見守りながら，安全面には配慮するようにする。 ☆ごっこ遊びの準備や遊びの展開など，なるべく子どもたちが進めていけるよう見守るが，ケンカやトラブルが起こったときなど必要に応じて手助けしていく。 ☆子どもたちのこれまでの頑張りを認めながら，自分の思いを話したり，相手の思いを聞くなど伝え合う場面となるようにする。
10:50	○牛乳をいただく。	

(11) 保育を終えて

① 検証保育「サンタごっこ」（12月11日）を終えて

○保育者の反省

・S子やA子は「先生『サンタごっこ』練習しないと」と話し、意欲が感じられた。

・ナレーションを行う予定だったS男が朝から落ち着かず緊張していた。前日に教師が「お客さんが来る」と「みせる」ことを意識させてしまった為だと反省した。

・個々の間では役になりきり，動きやポーズなどイメージを友達同士伝え合う様子は見られた。しかし、全体でのイメージの共有の弱さを感じた。

○指導助言（沖縄キリスト教短期大学非常勤講師　大湾由美子）

・「前の人は立ってね。後ろの人は座ってよ。」等，立ち位置など細かい演技についての声かけが交わされていた。それぞれの子どもたちの間で，イメージの共有化は十分行われていた。全体のイメージの共有化が必要。

・教師が進行することに気をとられていた。劇遊びでは心情・意欲・態度が培われる遊びである。つくるのが目的ではない。もっと，子どもたち個々の姿に目を向けることが大事である。

・劇遊びは，自分はこうしたら相手はこうするという，人との関係性を学ぶ。それを取り入れることが大切にしてほしい。

・劇遊びの捉えはできているが，今日は見せる劇になっていた。育つ過程を見てほしい。

・日案の中に仮説が抜けている。

② 検証保育「てぶくろ」（1月20日）を終えて

○保育者の反省

・前日、ナレーションを行ったA子が、他の子に対して絵本の通りに台詞を言うことを指示していたことから、劇遊びをする前にイメージを膨らませる遊びを楽しむことが必要であったと感じた。その為、今日はそれぞれの配役に分かれてお互いのイメージを出し合う場を設定した。友達同士でアイディアを出し合う様子は見られたが、教師の言葉かけが多く反省した。

○指導助言（沖縄キリスト教短期大学非常勤講師　大湾由美子）

・「幼稚園はすべてが環境」という言葉がある。野外でやってみてもよかったのでは。

・教師は言葉を言う援助だけでなく，「言わない」援助もある。

・子どもたちはかなりイメージを持っている。言葉から読み取れる。だからもっと子どもたちに「任せる」ことが必要。そうすることで子どもたちから言葉がたくさん出てくる。

3　仮説の検証

具体仮説（1） 幼児の日々の遊びの姿を捉え，興味・関心に即した「絵本」や「物語」に親しませることによって，イメージを共有して遊ぶ楽しさが味わえるであろう。

【検証保育までの流れより】

12/4～　サンタごっこ

○「サンタごっこ」のはじまり

クリスマスの曲に合わせ，舞台で楽器遊びをしている女の子達。立ち位置や動きを間違える子がいると「まちがっているよ。」「もう一回やりなおし。」と繰り返している。遊びの楽しさから誕生会の出し物として披露しようということになり，遊びにも熱が入っている。

教師が「先生，見てもいい？」と声をかけると「いいよ。」とはりきった返事が返ってきた。「がっきはうしろにかくしてよ。」とひそひそ声で隣の友達に教えている子がいる。その声を受け入れ，楽器をもつ手を後ろに回し，にこにこした笑顔で始まった。「あわてんぼうのサンタクロース」の前奏が流れると，鈴のパートの女の子の背後から「りんりん」と鈴の音が聞こえてきた。***教師が思わず「サンタクロースが近づいてきているみたい！！」と伝えた。***すると嬉しそうに笑う女の子達。

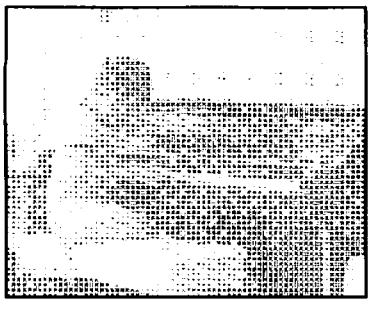
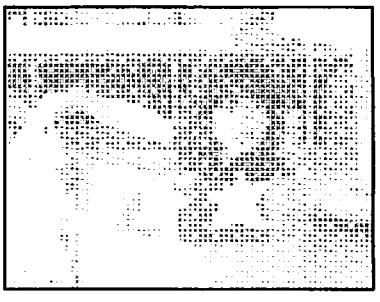
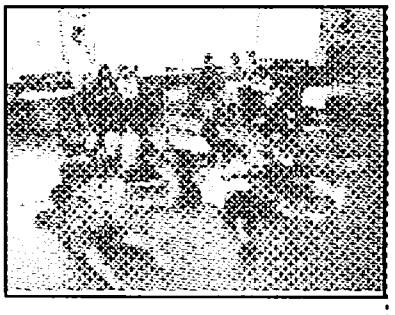
演奏を聞き終わりその場から離れると，先程楽器遊びをしていた女の子達が教師を追いかけてきた。「先生，お願いだから少し眠って！」「ちょっとだけ眠るまねして！！」と嬉しそうに頼んでくる。子どもたちの嬉しそうな笑顔に応え，教師は男の子たちとままごと部屋で眠るまねをした。その様子を確認した女の子たちは姿を隠し，鈴の音を鳴らし出した。そして寝ている場に近づいてくると枕元に何かドサッと置いて去っていった。女の子がいなくなるとタイミングよく男の子たちが「朝だよ～起きて～」と声をあげる。目を開けると枕元に人形が数個置かれていた。

子どもたちのクリスマスへの関心の高さと、「鈴を鳴らして登場するサンタ」に子どもたちの遊びの工夫のすごさと、イメージの豊かさを感じた。

○学級の中で

遊びの中で行っていた「サンタごっこ」の様子を学級で話した。遊びを工夫している場面を賞賛し，その場面と重なる内容の絵本『サンタがきたらおこしてね』を読み聞かせた。読んだ後，***クリスマスのイメージが皆のものとなるよう話題にしながら，クリスマスのイメージを聞いてみた。***すると，

「サンタがプレゼント配るんだよ」「トナカイもくるよ」「サンタクロースみたことあるよ」
「ひげがこんなにながいよ」と思い思いに話していた。
「幼稚園にもサンタさんがきたらいいね～」と会話を楽しむ。
その後，***教室の電気を消し「夜になりました。今日はクリスマスイブです。よい子の子どもたちは眠ることにしました。」と語る。***するとすぐにごっこ遊びが始まったと気づいた子，暗くなったことを喜ぶ子，騒ぐ子など様々な反応が見られたが，全員が教師の語りにのりすぐに眠ったふりをしていた。そして絵本のストーリーに沿って皆でごっこ遊びをした。終わった後
「トナカイの角つくろう」「段ボールで作ったら」「木の枝がいいよ」「葉っぱもつけたら」「サンタは画用紙でまわりにひげつけたら」などアイディアを出していた。
また「そりを作りたい！先生段ボールある？」と言う女の子たちもいたので段ボールを提供した。すると穴を空け縄跳びを通すなど作業を始める。***翌日，イメージが実現できるように段ボールや色画用紙，空き箱，ビニールひもなどいろいろ素材を置いておく。また，段ボールで作った囲いや，部屋の雰囲気作りができるよう折り紙コーナーを設けた。***
翌日，そり作りをしている女の子たちは朝からすぐ作業を始めていた。様子を見守っていると段ボールのそりに色をつけたい様子であったので，絵の具で塗ることを提案する。すると完成するまで夢中になって塗っていた。他にも小さなヨーグルトのカップ２つを逆さにし自分の鈴をつけ，トナカイの首輪を作る子もいた。また段ボールの囲いをすることでおうちに見立て，
「先生２段ベットつくったよ」
と昨日の遊びの続きを始める子，部屋の間取りで言い合いになり折り合いをつける様子も見られた。

〈考察〉
楽器遊びの中で「サンタが近づいてきたみたい」という教師の発言が子どもたちの「サンタごっこ」につながったように思う。そのような子どもの興味関心を絵本へとつなげて見る。取り組みの中でイメージは子どもたちに共有され膨らんだ。生活の中でいろいろな場面で何気なく伝える教師の言葉が子どものイメージを広げ，膨らまし，生活を豊かにしていくことを理解することができた。
子どもたちの声を聞き環境を整えたり，アイディアを取り入れたりしたことで，主体的に関わり，イメージを膨らませ，遊びが広がったことは良かった。また友達同士のイメージの伝え合いも数多く見られた。

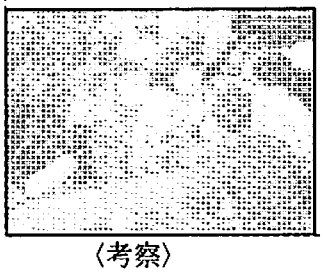
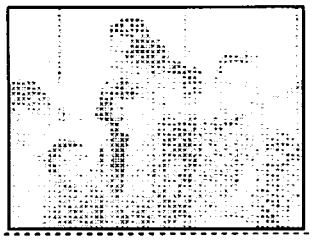
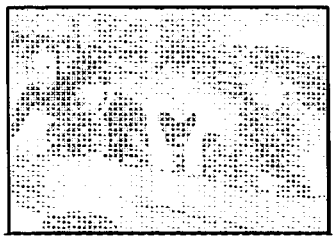
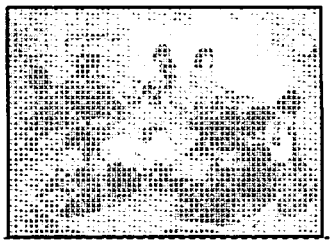
具体仮説 (2)
教師が幼児の言葉をつないだり，必要に応じて言葉化するなどによって，幼児同士の伝え合いが深まり，イメージを共有して表現を楽しむであろう。

【保育記録より】

1/20　てぶくろ

劇遊びを行ってから 3 日目，友達同士イメージを共有する楽しさを味わってほしい，思いを伝え合ってほしいとそれぞれの役に分かれ，どんなふうに登場するかイメージを出し合う場を設けた。しかしはじめすぐにはイメージを出し合う様子が見られなかった。教師は各グループをまわり，子どもたちの声を聞いてみた。すると，はやあしうさぎ役の子たちは，走るまねした後で台詞をいうと考えていた。そのアイディアを認め，教師は他児に「いい考えしているグループがあるよ。」と紹介した。
すると，ぴょんぴょんがえるの役の子たちから「先生，A男がいいこと考えよった。ぴょんぴょん

がえるだケロっていいよった。」と話してきた。
のっそり熊の役の子たちは「こうやってかんがえたよ。」と手を前に伸ばして指先を下に向けて爪をたてているように表現して見せた。
はいいろおおかみ役の子は「はいいろおおかみです。」と低い声で話し声色を変化させていた。
おしゃれ狐役の子たちはごっこ遊びの３人で肩をつかんでジャンプしながら登場し，工夫していた。教師は自分たちでアイディアを出している姿を褒める。すると男の子からも「すごい」と褒められていた。

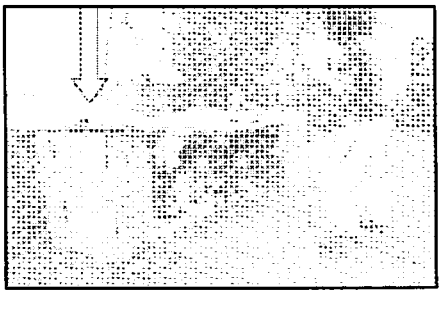
〈考察〉
今回は劇遊びをしていく中で「友達と遊びを進める」ことに重点をおき検証保育を行った。幼児の興味･関心と教師の意図をかさね「てぶくろ」の絵本を選択し，すぐに劇遊びへと展開していった。しかし，イメージを膨らませる見立て遊びが弱く，絵本の通りに演じないといけないという思いを強めてしまったように感じる。セリフのある絵本では見立てやイメージを膨らませるなどの遊びを行うことで，ストーリーを離れてなりきりなどのイメージ遊びをすることが大切だとわかった。そうすることで，表現する楽しさを味わい，自然に友達同士進められるようになったのではと反省した。

具体仮説（3）
絵本の場面に合った環境を整えることで，幼児が自ら環境に関わり，イメージを膨らませて遊びを楽しむことができるであろう。

【保育記録より】

1/21 てぶくろ

検証保育での指導講師の先生の助言を受け，園庭を森に見立て，そこに段ボールで作った大きな「てぶくろ」を用意した。すると，いつもと違う環境の変化に興味を示し，組み立てを手伝う子，中に入って会話を楽しむ子，近づいて様子を見る子など自ら関わる子が多かった。そこで
「てぶくろの中に入っている子はだあれ？」と教師が刺激を与える。すると
「H子とH美とY子よ。あなたは？」と場の状況に合わせた返事が返ってきた。
そこからごっこ遊びが始まった。その様子を見ていた男の子たちがふざけて段ボールを揺らしに来た。
「地震が起きました」
と子どもの動きに合わせて後から教師がナレーションを加えると，子どもたちは喜んでいた。中にいた子は「きゃー」と逃げだすなど遊びも変化していった。
時には
「てぶくろがもぞもぞ動いています。犬がわんわんとほえました。」
と教師が声をかけると，子どもたちは
「きゃー」と逃げだした。この場面が楽しかったようでこの後も
「もっとやりたい！！先生もう一回やって」
とこの場面だけを何度も繰り返し行った。
また「おれペンギンやりたい」
のK男の一言がきっかけとなり新しい「てぶくろ」をする。内容は船からおじいさんが手袋を落とし，北極熊やオットセイが登場するなどの北極バージョンである。また「次は虫バージョンやりたい。」とイメージが膨らんでいった。

上から見ると手袋の形になっている。


〈考察〉
イメージに合った環境を整えることが，自然に子どもたちの主体性を促し，イメージを膨らませ

ることにつながる。環境構成の重要性を実感した。「もっとやりたい！」と声が上がったのはよかった。また，教師の援助として，どこで遊びに入り，どこで抜けるかタイミングへの配慮も大切だと，友達同士の伝え合いやイメージの共有が図れるよう「見守る」援助を行うことが私の課題であると学んだ。

Ⅷ 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

・幼児の興味･関心を捉え遊びを行うと，イメージを共有し主体的に遊びに関わっていた。
・幼児同士の「思いの伝え合い」が行われるよう、視点をもち援助すると、幼児同士の伝え合いが盛んに行われていた。幼児の「自ら育つ力」を実感することができ、教師の過度な関わりが減少した。
・幼児の声や姿を捉え，言葉をつないだり，言葉化することによって，それぞれのイメージが膨らみ，意欲的に遊びに参加していく姿が見えた。
・幼児にとってイメージに合うように環境構成を行うことで，幼児が主体的に遊びに関わってきた。
・「ビデオおこし」（教師や幼児の発した言葉や動きを記録し自分の保育を振り返る）をすることで，客観的に自分の保育を見ることができた。

2 今後の課題

・幼児の興味･関心や発達を捉えずに遊びを行うと，幼児の遊びへの関わり方は受け身になることを実感した。幼児の日々の姿を捉えることを大切にしていきたい。
・教師が過度に言葉をかけると，幼児の伝え合いや主体性は育たないと感じた。教師の話し方や援助の仕方を磨いてく。
・教師が劇遊びを進めることを優先してことで，幼児を型にはめてしまい楽しめなくなっていた。遊びの中で，「何が育っているのか」と姿から読み取ることや，幼児の気持ちから出てくる声を「待つ」ことが大切であると実感した。
・幼児の豊かな言葉を育むための言葉遊びを計画的に実践していく。

3 おわりに

「思いを伝え合いイメージを共有して表現することを楽しむための援助の工夫」とテーマを設定し，劇遊びを手立てに実践や理論研究を進めてきました。研究目標や仮説，検証などを通して学んだことは、幼児同士の伝え合いは心の安定と体験の充実に加え，絵本や物語などの活用によって豊かに育つことが確認できたことです。また，相互に言葉を交わし合うことでイメージが共有され表現を楽しむ様子も見られました。しかし、幼児が遊びを豊かにしイメージを膨らませて共有していく過程は，幼児の主体的な生活そのものと考えますが，教師の援助として「見守る」「待つ」「任せる」ことの難しさも痛感しました。今後さらに学びを深めていきたいと思います。

研究を進めるにあたって，沖縄キリスト教短期大学非常勤講師の大湾由美子先生には，研究論文に関してだけでなく，保育への姿勢も含めたくさんの大切なことを温かく，丁寧に，教えていただきました。心より感謝申し上げます。また，研究の進め方や論文の書き方の指導や他にもいろいろな面で支えて下さった研究所の照屋寛八所長，志良堂保夫係長，指導主事比嘉律子先生，研究の機会を与え，丁寧に指導助言をして下さった勝連幼稚園の兼久弘和園長先生，島袋浩子教頭先生，勝連幼稚園の皆さん，またいつも元気なゆり組の子どもたち，検証保育に参加し貴重な助言を下さった教育相談所の新里正子係長に心より感謝申し上げます。更に，いつも明るく楽しく笑い合い共に支え合った同期研究員の盛小根久美子先生，庶務の城間なおみさん，いつも暖かく励まし助言して下さったうるま市教育委員会指導課の皆様，本当にありがとうございました。

〈主な参考文献〉

荒木尚子論説　2009　『言葉による伝え合いをはぐくむ指導』
岡田明編著　2008　【新訂】『子どもと言葉』　萌文書林
文部科学省　2008　『幼稚園教育要領解説』　フレーベル館
小田豊・芦田宏編著　2003　『保育内容　言葉』　（株）北大路書房
坂元彦太郎・山下俊郎監修　1966　『表現力を高める遊び』　小学館
高杉自子　1973　『新しい劇遊びの指導』　ひかりのくに株式会社